

説明書

(令和6年2月18日作成)

・不誠実対応-42

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、嘘であることを知りながら、事故当時、運転手(尾崎)は悠生君の誘導においてしっかりと強い力で悠生君の腕を両手で掴んでいたという報告を、悠生君の両親に対しても、吹田市に対しても行っていた。

また運転手(尾崎)に宇津慎史は嘘をつくように指示していたことも判明した。

- ① 両親に対してアルプスの森(施設長:宇津慎史)が提出してきた報告書には、当該従業員は悠生君の腕をしっかりと持っていたと説明している。

事故報告書(令和5年1月16日付)に以下内容が記載

「尾崎は両手で清水君の腕をしっかりと握りながら、普通乗用自動車から下車させ、事務所内へ誘導しようとしたところ、清水君は突然尾崎の両手を振りほどき、手前の道路を走って横断してしまいました。」

回答書(令和5年3月16日付)に以下内容が記載

「尾崎は両手で、清水君の前方からその右腕をしっかりと持っていました。自動車は、施設の入り口に向かって前向きで駐車し、清水君が降車したドア(スライド式)は右側でした。降車した地点から施設の入り口(施設の壁)までの距離は4m前後でした。」

回答書(令和5年3月16日付)に以下内容が記載

「尾崎が両手で清水君の腕を持っていた際の強度は、清水君が振りほどこうとしても容易には振りほどくことはできない程の強度で、それなりの強さとなります。」

清水君が尾崎の両腕を振り払った際の対処については、尾崎によれば振り払おうとしても簡単には振り払うことはできない強度でしっかりと持っていたため、想定していなかったとのことです。」

- ② 吹田市に対してアルプスの森(施設長:宇津慎史)が提出してきた報告書にも、当該従業員は悠生君の腕をしっかりと持っていたと説明している。

吹田市への事故報告書(令和5年9月10日付)に以下内容が記載

「Aは、男児に靴を履かせた上で降車させました。この際、Aは男児の荷物二つを右肩に背負い、両手で男児の前方からその右腕を、男児が振りほどこうとしても容易には振

りほどくことができない強さでしっかりと握っていました。
男児が降車した地点から建物の入り口までの距離は4m前後でした。
この直後、男児は突然、Aの両手を振りほどき、走り出しました。」

- ③ 報道において、アルプスの森(施設長:宇津慎史)が両親や吹田市へ報告した内容とはまったく異なる内容が報道された。

(毎日新聞オンライン 2023年12月13日引用)

宇津容疑者らが市に「運転手が男子生徒の腕をつかんでいたのに振り払われた」と報告していたことも明らかになった。しかし、施設から押収した資料から、運転手が助手席の荷物を取っている間に清水さんが飛び出したと記したメモが見つかったという。府警は、容疑者らが事故の責任を追及されないよう、市に虚偽報告を繰り返していたとみている。

(YTV 2023年12月30日引用)

事故後、宇津容疑者らは両親に、「悠生さんが運転手の手を振りほどいて走り出した」「運転手が業務を重ねることで、『1人で大丈夫』と考えるようになってしまったことが原因」などと説明していました。しかし、捜査でわかったことは、今回の事故が起きたとき、運転手は腕をつかむどころか助手席から荷物を取ろうと目を離していて、2018年以降、事故以外にも2度、悠生さんが車から飛び出し、水路に入り込んだり、川に飛び込もうとしたりしたことがあったということでした。

(ABCニュース 2023年12月22日引用)

警察の調べに対し、運転手(48)はすでに逮捕されている施設の運営会社代表の宇津慎史容疑者(60)から、「手をつかんでいたというその説明のままにしておけ」と、口裏合わせをするように指示されたと話しているということです。